

平成 28 年富士山金太郎議会



平成 28 年 10 月 14 日に小山高校から 16 名の高校生が参加し、『富士山金太郎議会』を開催しました。この高校生議会は、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げになったことを受け、小山町の次代を担う高校生に、身近となった町政や町議会の関心を高めてもらうことを目的に開催しました。

定例会と同様に緊迫感の中で開会されましたが、高校生議員からは、現在、町が直面している課題や日常生活に関することなどの 8 問が堂々と質問されました。町長や教育長、担当部長が、一問一問に真剣に答弁をし、全ての回答に対して再質問もされるなど、町政側と活発な議論を交わしました。当日の質問や提案された一部をご紹介します。

(質問・答弁の全文については、会議録をご覧ください。)



高校生議員からの一般質問と答弁要旨



小山高校 1 年
勝又 涼菜 議員

小山町のPR戦術について

小山町は、富士山、金太郎、あしがら温泉などがあり、観光地として魅力的なものが多くあります。町の認知度を上げる方法として、SNSを利用した宣伝活動に力を入れてはどうか。SNSは現在、大きな情報発信源であり、各自治体が工夫をしながら活用しています。SNSごとの特徴を活かし、町内のイベントや行事を周知することで、幅広い世代の方の目にもとまりやすく、興味をひくことができると考えます。

答弁（町長）

勝又議員がおっしゃるとおり、SNSは大きな情報発信源であると認識しております。現在本町では、平成25年から「足柄山の金太郎」フェイスブックを立ち上げ、町のイベントに金太郎が登場してイベント内容の紹介や、町内の観光スポットなどをPRしております。「足柄山の金太郎」フェイスブックを今後、活用しながらも、新たに「小山町公式」のSNSを立ち上げ、イベント情報をわかりやすく発信できるようにいたします。

改善すべき点は改善をし、今後も富士山や金太郎などの小山町の資源を利用した情報発信などに対する町の方針を明らかにして、認知度の向上に努めていきたいと考えております。



小山高校 2 年
高橋 美紀 議員

路線バス・コミュニティバスについて

山々に囲まれた小山町において、交通環境が整っていることは、生活しやすい町づくりのために必要不可欠であると思います。そこで、小山町でも運行を検討している、利用者の要求に対応して運行するデマンド型バスの整備を進めればいいのではないかと考えます。本町では、朝夕は通勤・通学でバスを利用する人が多いので、朝夕は従来通りの路線型バスを運行し、日中はデマンド型バスにすれば、町民の生活スタイルに合ったバス運用ができると考えます。

答弁（企画総務部長）

デマンド型交通の多くは、タクシー事業者が市町からの委託を受けて運行しています。しかし、町内には、タクシー事業者や営業所がないため、町が独自で新たな車両や運転手、予約システム等を確保する必要があり、現時点ではデマンド型バスを運行するとなると、利用者一人あたりの経費が高くなり、さらに、町財政への負担も大きくなるため、現時点では、導入することは難しいと考えています。

今回のご質問も参考にし、地域公共交通の活性化と利用者の利便性向上を図るよう今後も取り組んでまいります。



小山高校 2 年
江藤 黎 議員



小山高校 1年
井上 美祐 議員

スポーツに親しめる町づくりについて

スポーツに関わることで、子どもは大きく成長します。スポーツに接する機会を増やし、プロ選手による教室や親子スポーツ教室を実施することで、子どもたちがスポーツに興味を示す大きなきっかけになると考えます。将来的に、少年団や中学校・高校の部活動で県上位の成績を収めるようになれば、健康推進だけでなく、「スポーツのまち小山町」として町の活性化や知名度アップにもつながると思います。

答弁（教育長）

本町は、五輪選手やプロ野球選手を多く輩出しており、町内の子どもたちが一流選手からスポーツや生き方などを学ぶことができると考え、各種教室を開催しています。通常の教室とは異なり、第一線で活躍している選手からの指導は、技術だけでなく、生き方や物事の考え方を学ぶことができ、子どもたちは大変感銘を受けている様子が伺えました。今後も機会があれば、アスリートを講師に招いた教室や講演会を計画し、スポーツ活動の推進ときっかけづくりに努めて参ります。



小山高校 1年
渡辺 千晶 議員

引き続き、様々な施策を実施していくことで、スポーツ・レクリエーション活動の振興を図り、町の活性化や知名度アップにもつなげていきたいと考えています。



小山高校 2年
小見山 大輔 議員

災害ハザードマップについて

現在、小山町で配布されている防災マップや土砂災害ハザードマップ等は一つ一つの質はとても高く、危険区域などが細部まで書かれていて専門的だと思います。しかし、専門的なあまり小山町に詳しくない人や観光客には一目見ただけではしっかりと正確に情報を把握することが難しいと感じます。他市ではグーグルマップを利用したハザードマップを作成しています。もしもの災害時のためにも、誰が見てもわかりやすい簡単かつ正確なハザードマップが必要だと思います。

答弁（危機管理監）

ハザードマップは、自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域、避難場、避難経路、警戒避難時の連絡体制などの多種多様の情報を記載するため、限られた紙面に充実した内容を収め、それを見やすくすることに苦慮しているところです。正しい情報を得るには、ハザードマップの見やすさは重要と理解しており、平常時における防災意識の高揚などに寄与すべく、より利用しやすいハザードマップとし、今後も質の向上を図ってまいります。



小山高校 1年
村松 里彩 議員



小山高校 2年
坂井 新一 議員



小山高校 1年
瀬戸 友香 議員

町の魅力の伝え方について

小山町は自然環境がとても良く、その魅力をもっと広く知ってもらえれば、移住者や町外から足を運んでくれる人が増えると思います。自然に囲まれた素晴らしい環境があるにも関わらず、アウトドアを楽しもうと思えば、町外に出て行ってしまるのが現状です。今後、足柄スマートICの設置が計画されており、このアクセス網を利用すれば、首都圏の他、多くの地域からの誘客も望めます。そこで、鮎沢川を利用した町営キャンプ場やバーベキュー場を建設すれば、小山町の魅力を町内外に広めることができると思います。

答弁（経済建設部長）

現在、町営のキャンプ場やバーベキュー場はありませんが、鮎沢川沿いにある足柄ふれあい公園では、富士山金太郎夏まつりの会場として、川下りレースや芝生広場でのバーベキューなどを実施し、県内外から多くの方が集まり、真夏のイベントとして賑わいをみせています。

今後、足柄ふれあい公園については、指定管理者制度の導入により民間活力の活用を視野に入れ、日常的にバーベキューを楽しめる施設として整備します。



小山高校 2年
谷口 碧性 議員



小山高校 1年
天野 隆佑 議員

健康福祉対策について

高齢者向けのガイダンスを行うことで、健康意識が高まり施設の利用が増え、健康長寿なお年寄りも増えると思います。

また、足が不自由な方や文化会館、福祉会館までの交通手段がない方も運動できるように各区のコミセンに簡単な器具などを置くことで、誰もが気軽に使えるように出来ます。小山町の福祉施策は、ふれあい茶論等、いろいろな取り組みを行っていて、充実していると思います。それらに加えて以上のような施策を取り入れることで、「健康で元気な小山町」を作り上げていけるとと思います。

答弁（町長）

現在、町ではヨガ等の6種類の体験講座を健康福祉会館で毎週実施しているほか、町オリジナルの介護予防体操「元気だらぁ体操」を地元ケーブルテレビで放映し、気軽に楽しくできる運動を提供しています。また、各地区の公民館などで介護予防ボランティアの協力を得ながら、体操教室の実施に取り組んでおります。運動器具を置くことは今のところ予定していませんが、「元気だらぁ体操」のDVDを各シニアクラブに配布したり、運動講師を地域へ派遣するなど健康づくり運動の推進に努めていきます。



小山高校 2年
田代 朝来 議員



小山高校 2年
山崎 瑠夏 議員

Uターン就職の施策について

県外に進学したのちに、小山町に戻って就職をする生徒はあまり多くありません。若い人材が地元に戻り、そこで仕事に就くことは、産業人材の確保だけでなく、町全体の活性化にもつながります。小山町で生まれ育った人たちが、小山町で就職したいと思わせることが大事であると考えています。そこで、町内出身者を対象とした「奨学金制度」があれば、Uターン就職を促進することができると思いました。例えば、保育士を希望し大学卒業後、小山町で勤務をすると返済免除等の特典があれば、小山町で就職したいと考えます。本校でも保育士、看護師を希望している生徒が多いため、これらを実施することでUターン就職の施策の効果が生み出せると考えます。

答弁（教育部長）

今年度から静岡県が保育士修学資金貸付制度を開始しました。この制度では、保育士の養成・確保を図るため、修学資金や入学準備金などの貸付を行い、卒業後、一定期間、県内施設・事業所等で児童の保護等に従事した場合、修学資金の返還が免除となります。保育士を目指す方には優遇された制度となっておりますので、将来、保育士を目指す方には、この制度を活用していただきたいと考えております。Uターンを推進するためには、ふるさと教育を充実し、郷土への愛情や誇りを持っていただくことが、重要と考え取り組んでいきます。

答弁（住民福祉部長）

町では、将来、保健師、看護師等として、町民のために働きたいという希望を持つ方のために、「保健師等修学資金」の貸与を行っています。卒業後、町職員または町内の医療機関等に、貸付を受けた期間と同じ年数勤務すれば返済が免除されるものです。より多くの皆様にご利用いただくために、制度の周知を図るとともに、今後、小山高校や近隣の高校へも積極的に呼びかけてまいります。



小山高校 2年
田代 夕芽 議員

自然豊かな町の公園づくりについて

小山町内にある公園を訪れてみると、町内の公園には子どもたちが楽しめるような公園が少ないように感じました。例えば金時公園や豊門公園などには遊具がありません。近隣の市町では、アスレチックがあったり、フリーマーケットが行われたりするなど、子どもやその家族向けにつくられた公園がたくさんあります。

町の活性化を図るためにも「子育てのしやすい町」というイメージを作り上げ、公園等が賑わい、地域住民の憩いの場となることを望みます。



小山高校 2年
山田 育代 議員

答弁（町長）

公園には、利用目的に応じて様々な用途の公園があります。金時公園には、地元の皆様からも遊具が欲しいとのご意見があることから、遊具を設置する計画があります。

また、豊門公園は、豊門会館和館、西洋館等の6つの建築物が、国登録有形文化財に登録され、町だけではなく、地元の方々の主催により、映画鑑賞会やもみじ祭り等を開催し、町民をはじめ町内外から多くの方に来ていただいています。今後も公園を魅力的な空間へとするよう取り組んでまいります。



小山高校 3年
勝俣 昇太 議長

議長をつとめて

本日は熱い討論をありがとうございました。

皆さんが夏休みから練り上げてきた質問は、小山町にとって助役になったと思います。こういった機会を通して、お互いの良い経験になったと思いますので、本日の経験を忘れずに、若い世代のリーダーとして頑張ってくださいと思います。

本日はありがとうございました。